

岩手県感染症週報

平成13年第52週（12月24日～12月30日）

岩手県結核 感染症情報センター

第52週の概要

1 類感染症

- ・患者発生の報告はありませんでした。

2 類感染症

- ・患者発生の報告はありませんでした。

3 類感染症

- ・患者発生の報告はありませんでした。

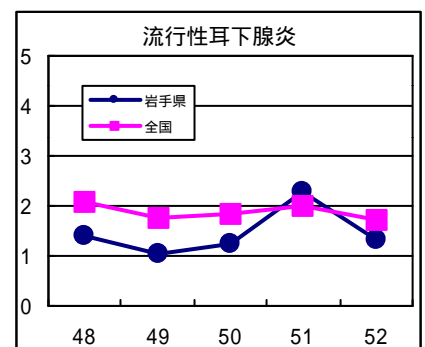
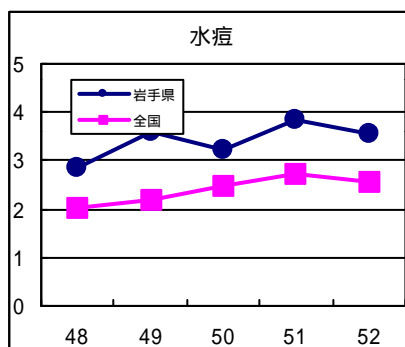
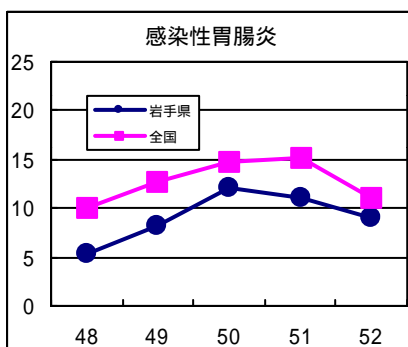
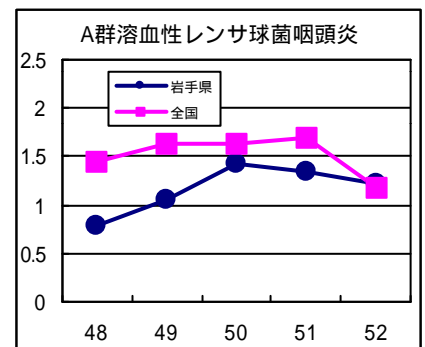
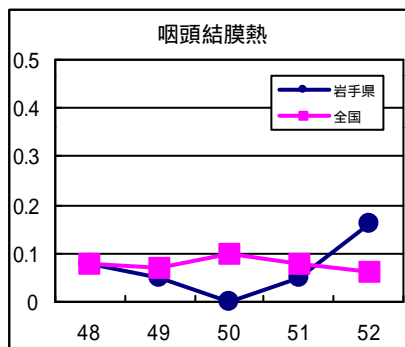
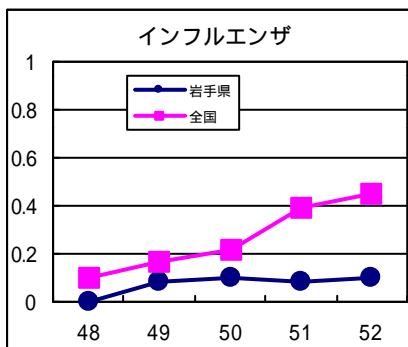
4 類感染症（定点把握対象疾患）

- ・インフルエンザの流行は始まっていません。
- ・咽頭結膜熱は、久慈地区で3名の患者発生の報告があり、全体として定点当たり患者数が増加しました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、引き続き北上地区で患者数が多く流行が続いていますが、増加傾向は消えています。他の地域でも患者数はほぼ横ばいです。
- ・感染性胃腸炎がほぼ流行のピークを迎えました。特に花巻地区と北上地区で定点当たり患者数が20を超えており、注意が必要です。「今注目の感染症」
- ・水痘は、引き続き花巻地区、北上地区、久慈地区で患者数が多く、流行が続いています。
- ・増加していた流行性耳下腺炎はやや減少に転じましたが、北上地区と久慈地区ではまだ流行が続いています。

4 類感染症（全数把握対象疾患）

- ・第49週に釜石地区で後天性免疫不全症候群（エイズ）の報告が1件ありました。推定される感染地域と感染経路は、日本国内での同性間性的接触です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向
		48	49	50	51	52	
インフルエンザ	岩手県	0	0.08	0.1	0.08	0.1	→
	全国	0.1	0.17	0.22	0.39	0.45	
咽頭結膜熱	岩手県	0.08	0.05	0	0.05	0.16	↗
	全国	0.08	0.07	0.1	0.08	0.06	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.78	1.05	1.43	1.35	1.22	→
	全国	1.44	1.64	1.64	1.69	1.18	
感染性胃腸炎	岩手県	5.27	8.14	12.16	11.14	8.97	→
	全国	10.12	12.79	14.66	15.11	11.13	
水痘	岩手県	2.84	3.59	3.24	3.86	3.57	↗
	全国	2.02	2.21	2.47	2.71	2.55	
手足口病	岩手県	0.51	0.11	0.62	0.68	0.32	→
	全国	0.51	0.47	0.43	0.38	0.27	
伝染性紅斑	岩手県	0.27	0.24	0.32	0.14	0.3	→
	全国	0.32	0.41	0.4	0.4	0.37	
突発性発疹	岩手県	0.59	0.41	0.57	0.38	0.38	→
	全国	0.79	0.79	0.74	0.73	0.63	
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
風疹	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0.03	0.03	0.05	0.03	→
	全国	0.08	0.06	0.07	0.06	0.05	
麻疹（成人麻疹を除く）	岩手県	0.27	0.08	0.11	0.05	0.03	→
	全国	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	
流行性耳下腺炎	岩手県	1.41	1.03	1.22	2.3	1.32	→
	全国	2.09	1.78	1.84	2.02	1.72	
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.03	0.04	0.04	0.04	0.03	
流行性角結膜炎	岩手県	1.67	1.17	1.17	1.5	1.17	→
	全国	1.03	1	1.12	1.01	0.95	
急性脳炎（日本脳炎を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.05	0.06	0.04	0.03	0.03	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.55	0.15	0.15	0.4	0.25	→
	全国	0.36	0.34	0.29	0.25	0.19	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0.01	0.01	0.01	0	
成人麻疹	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0.01	0.01	0	0.01	

全数把握対象疾患（過去5週の動き）

（患者発生数）

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 48	49	50	51	52	累計	52	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類 感染症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	49
	細菌性赤痢	0	0	0	1	0	3	28	806
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	1	63
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	22
	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	0	2	0	0	0	86	9	4279
四類 感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	1	5	416
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	13
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	30
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	6	0	885
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	40
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	0	0	2	2	130
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	43
	後天性免疫不全症候群	0	2	0	0	0	3	12	917
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	135
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	8
	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツツガムシ病	0	1	0	0	0	12	11	460
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1	47
	日本紅班熱	0	0	0	0	0	0	0	38
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	5
	乳児ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	5	8	562
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	75
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	41
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	104
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	14
レジオネラ症	0	0	0	0	0	1	0	83	

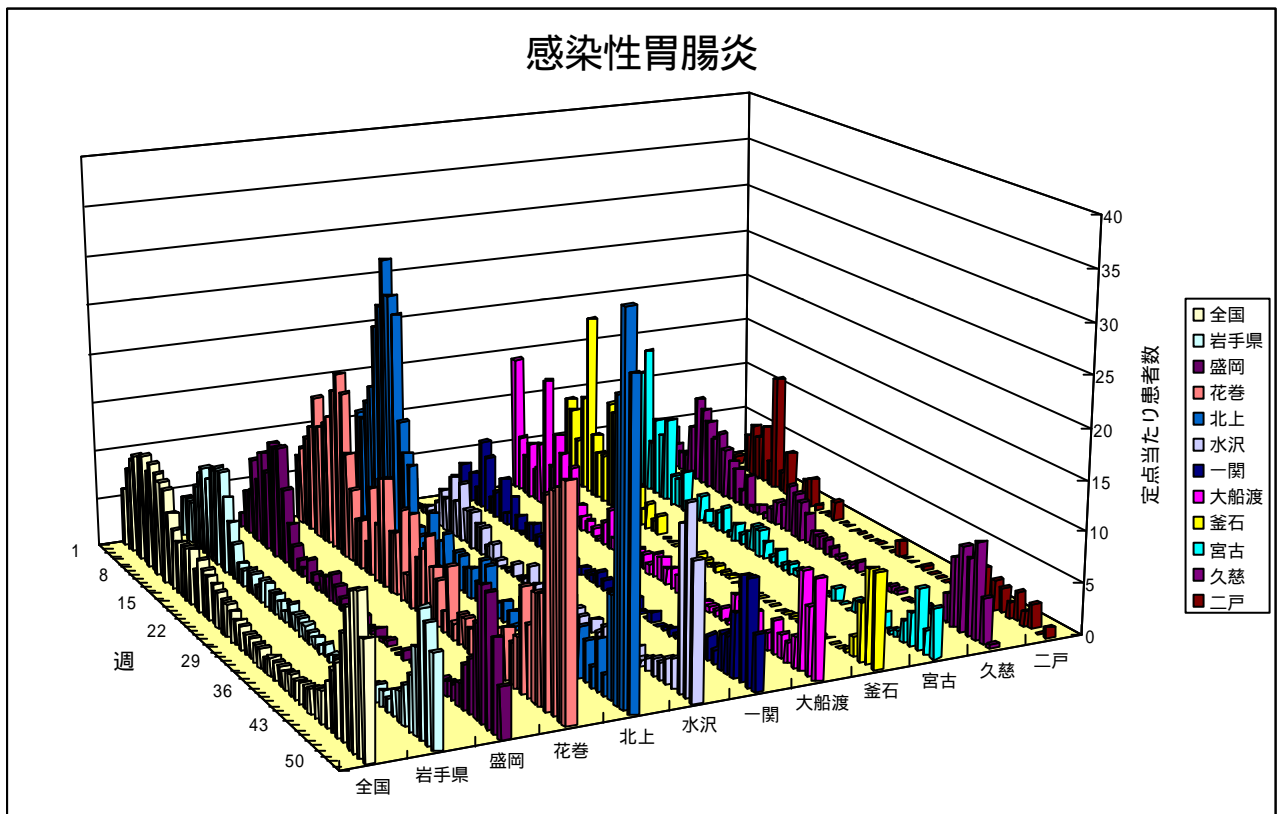
今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、単一の疾患を意味するものではなく、多種多様な病原体による胃腸炎を広く包含する症候群です。実際上分類されるのは、カンピロバクター、腸炎ビブリオなどの細菌や、ノーウォーク様ウイルス、ロタウイルスなどのウイルスによるものが中心となります。特に、冬季に小児科での患者が多く、主な病原体はノーウォーク様ウイルス（いわゆる小型球形ウイルス（SRSV）の一種）とロタウイルスといわれています。

ノーウォーク様ウイルスは、感染力が強く、しばしば集団発生を引き起こします。感染経路はウイルスに汚染された食品や水、ヒトの排泄物などがあげられます。潜伏期間は1～2日程度で、主な症状は微熱を伴う下痢や嘔吐です。体内にウイルスを持っていても症状がでない人もいるため、本人が気づかないうちに感染を広めていることもあります。

感染の予防には、食中毒の一般的な予防法に準じて食品の加熱を徹底すること、流行期には手洗いを励行すること、患者との濃厚な接触を避けることが大切です。



病原体検出情報

第49週（12月3日～9日）から第52週（12月22日～30日）までに感染性胃腸炎の患者の糞便18検体からノーウォーク様ウイルス（NLV）（いずれも遺伝子型II）が10株、サッポロ様ウイルス（SLV）が3株検出されました。これらのウイルスはいわゆる小型球形ウイルス（SRSV）の一種で、冬季の感染性胃腸炎の主な原因となる病原体です。

集団発生情報

ノーウォーク様ウイルスによる民宿での集団食中毒事件

平成13年12月、安代町にある民宿でノーウォーク様ウイルス（NLVs）による集団食中毒事件が発生しました。

病院からの通報により盛岡保健所が調査したところによると、患者は民宿の宿泊客22名で12月22日から23日にかけて発症し、主な症状は嘔気、嘔吐、下痢、発熱でした。患者8名と従業員4名の便のウイルス検査の結果、患者6名と従業員2名から遺伝子的に同一のNLVsが検出されました。

盛岡保健所では、患者の発生が短期間に集中し、嘔気、嘔吐の有症率が高く、発症者に共通する12月21日の夕食が原因であったとすると潜伏期間の平均は32時間であったことなど、状況がNLVsの感染による食中毒の特徴に一致していたこと、また、患者から高率にNLVsが検出されたことから、この事件は民宿の12月21日の夕食を原因とするNLVsによる集団食中毒と断定しました。

また、無症状であった従業員2名からもNLVsが検出されましたが、従業員も宿泊客と同じ食事をとっていたことから、感染経路については明らかにすることはできませんでした。

NLVsは非常に感染力が強く、手などを媒介して食品に付着するとしばしば集団感染を引き起こします。特に食品関連従事者は十分に手洗いを行うなど、厳重に注意が必要です。

医療機関からの情報

定点機関で実際に患者さんを診療している先生方からの情報をお待ちしております。

医療現場の生の声をぜひお聞かせください。

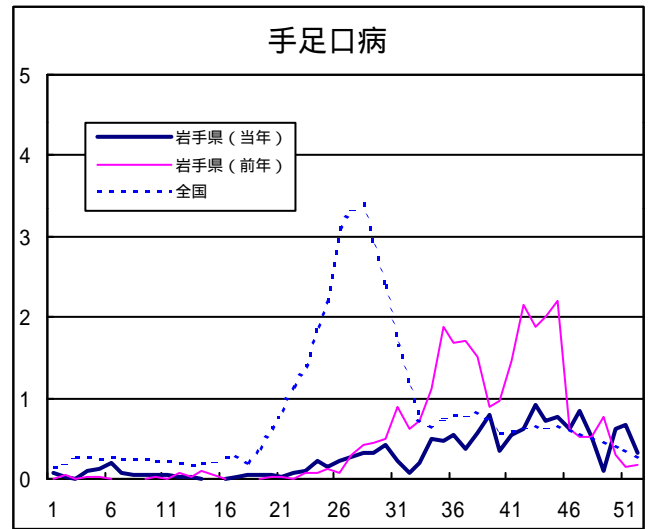
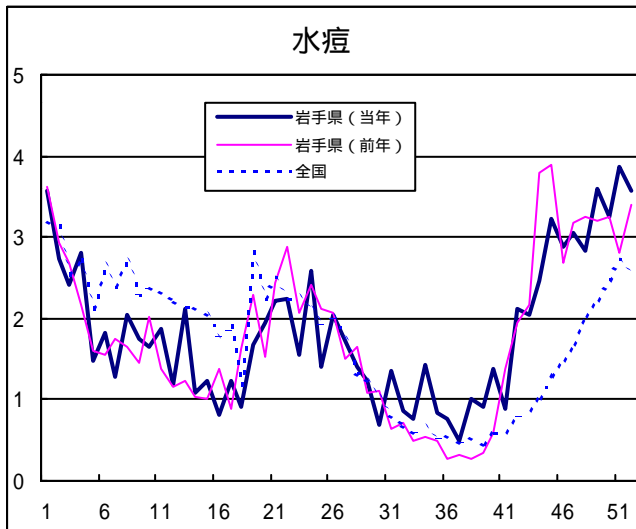
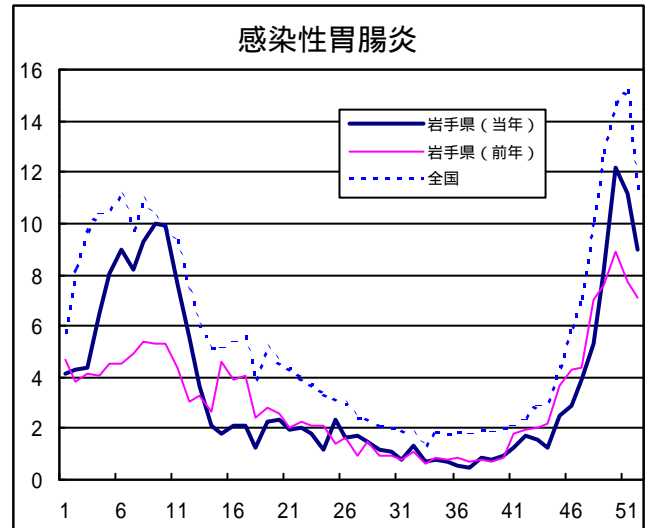
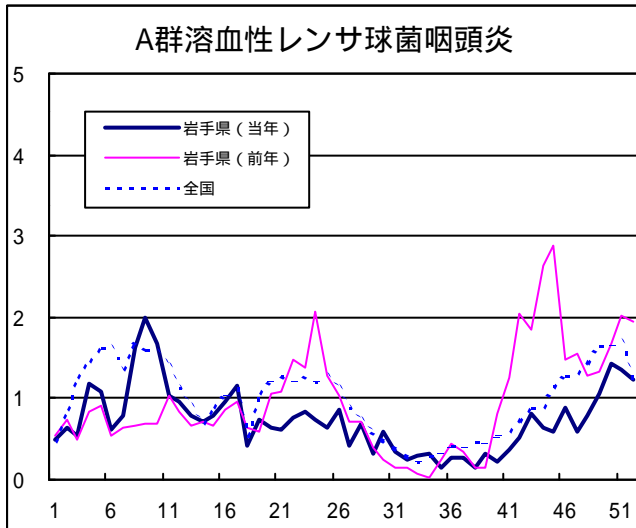
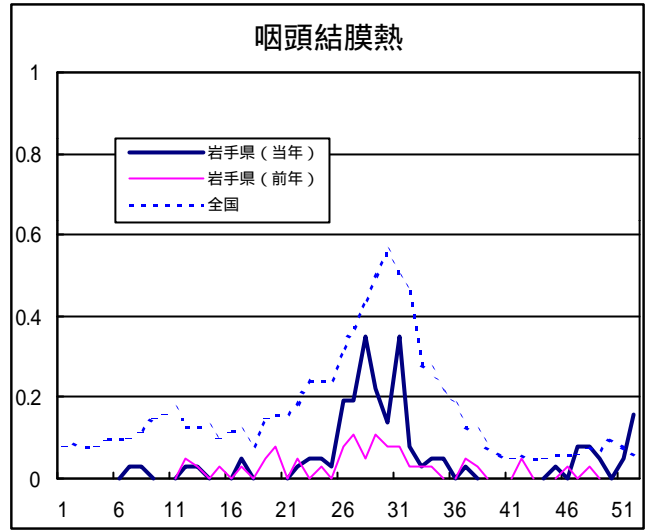
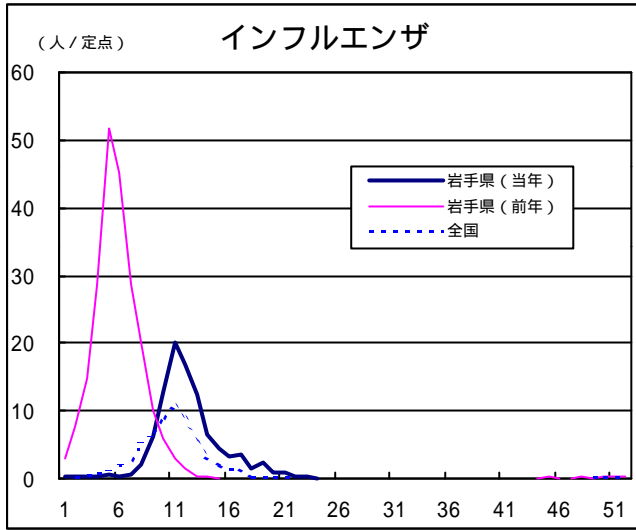
Q & A

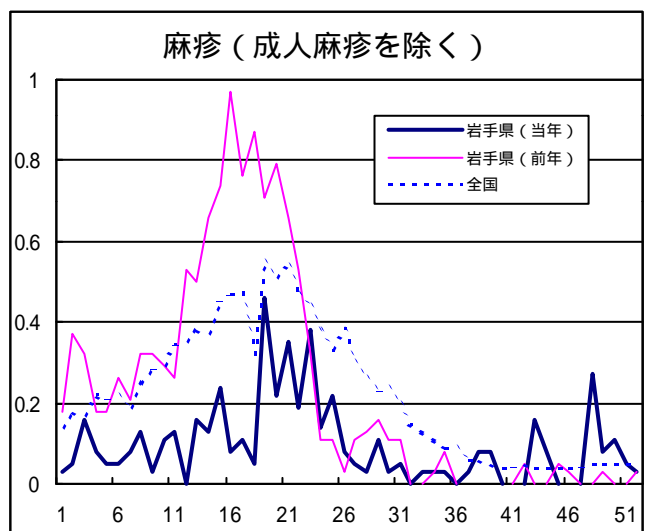
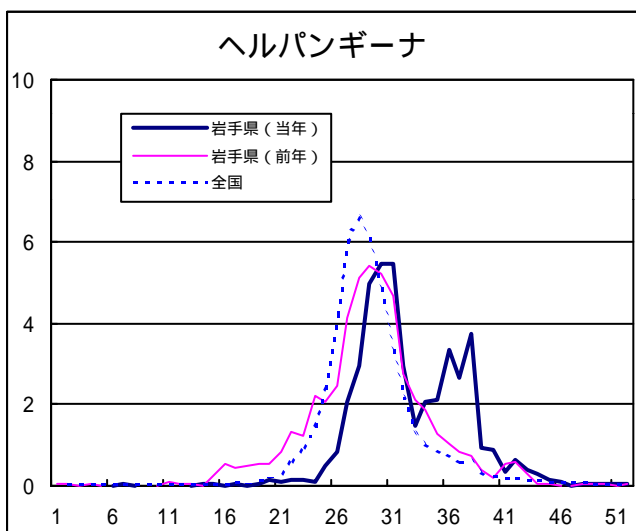
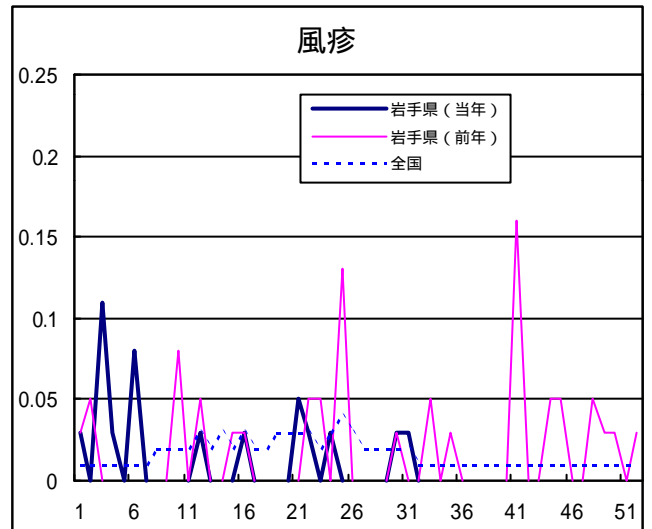
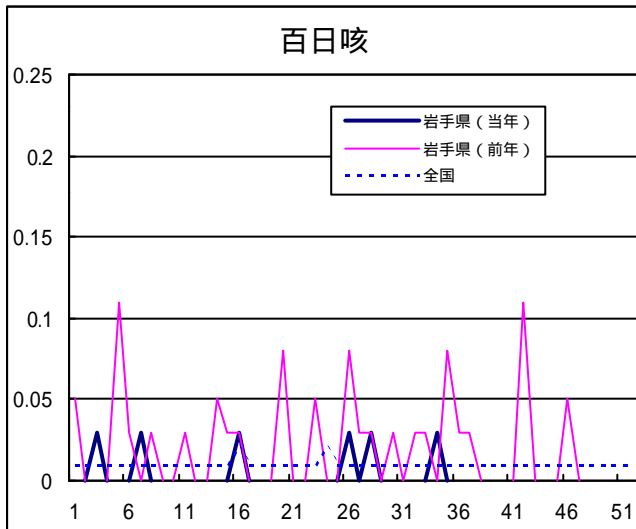
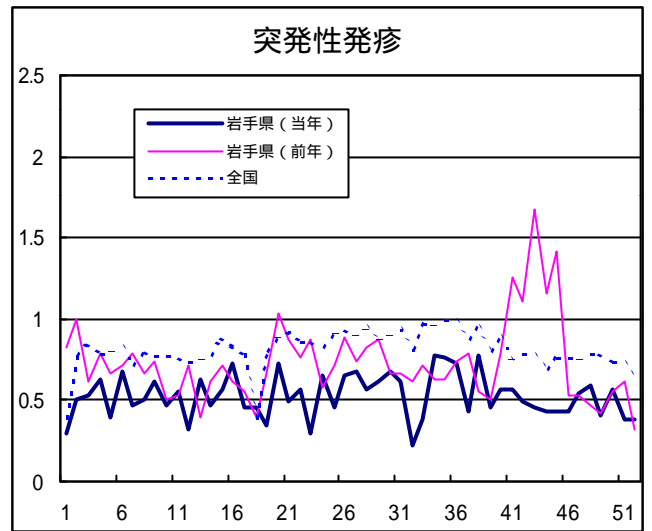
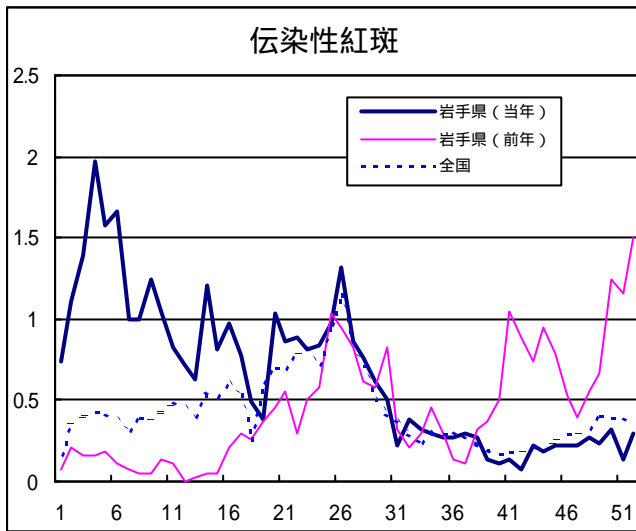
読者の皆様からのご質問をお受けしております。

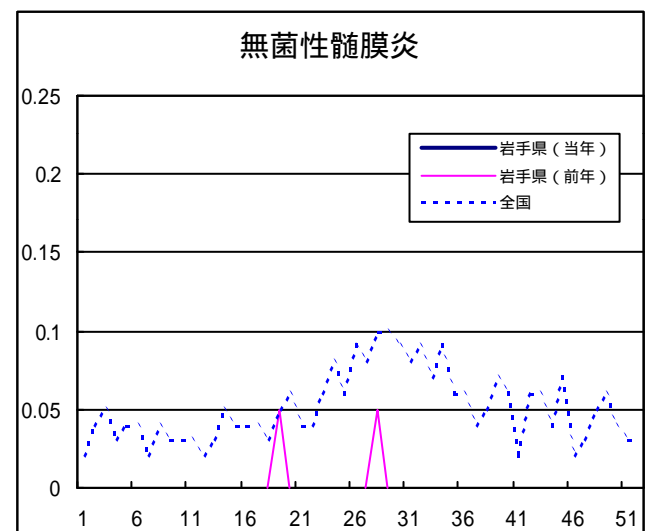
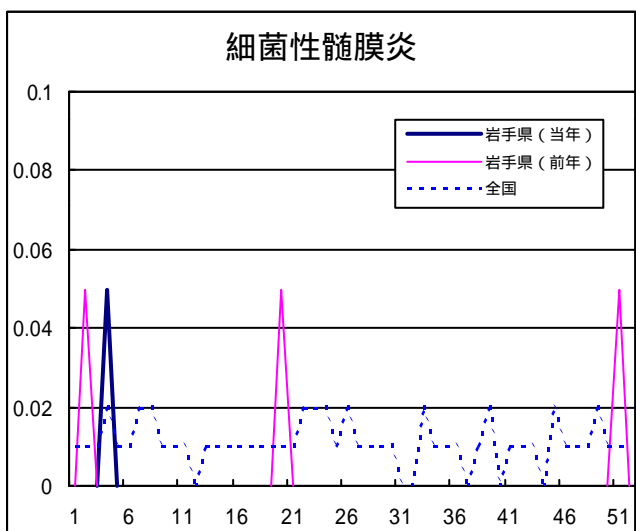
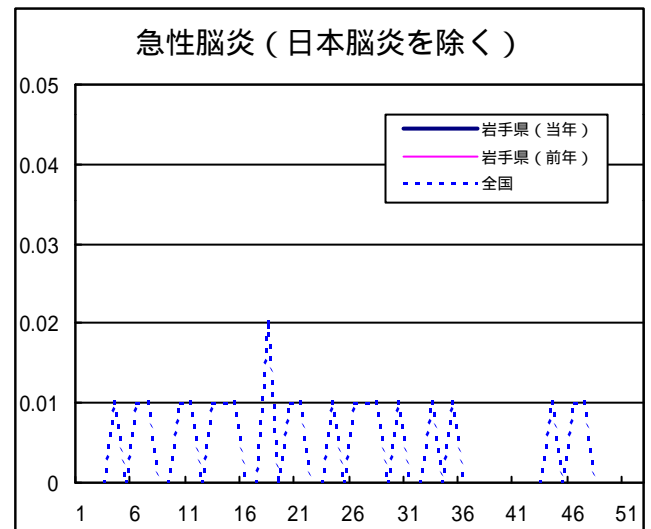
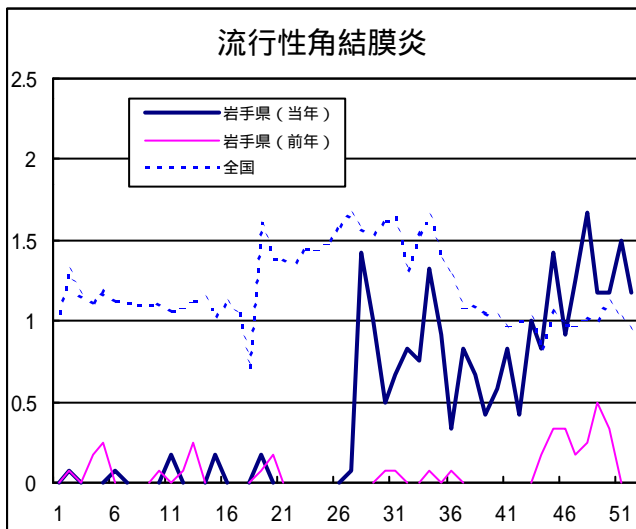
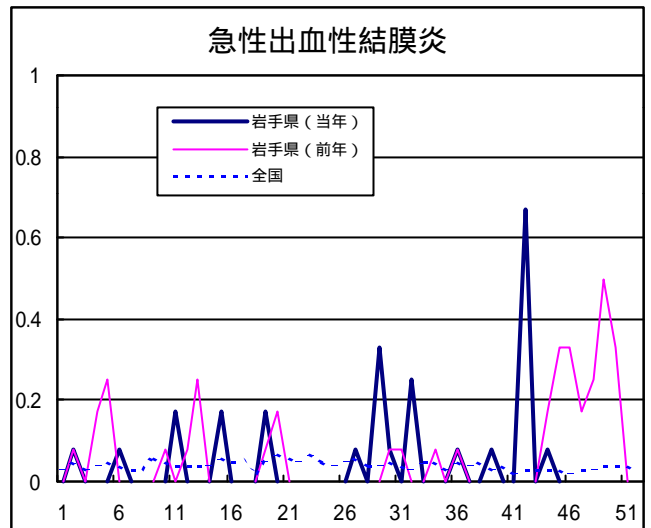
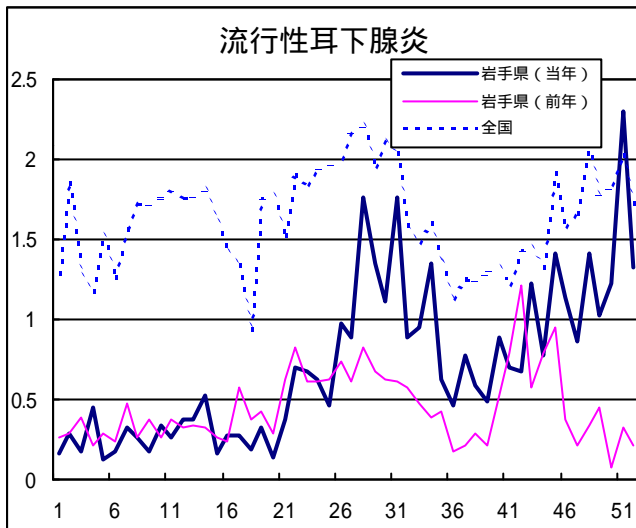
お寄せいただいたご質問につきましては、この欄でお答えします。

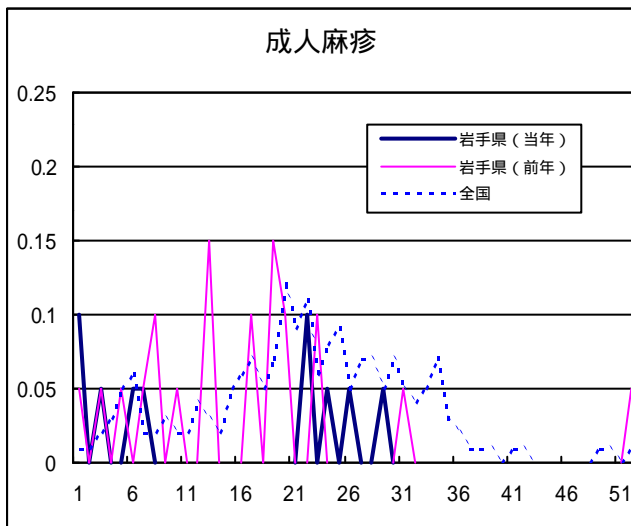
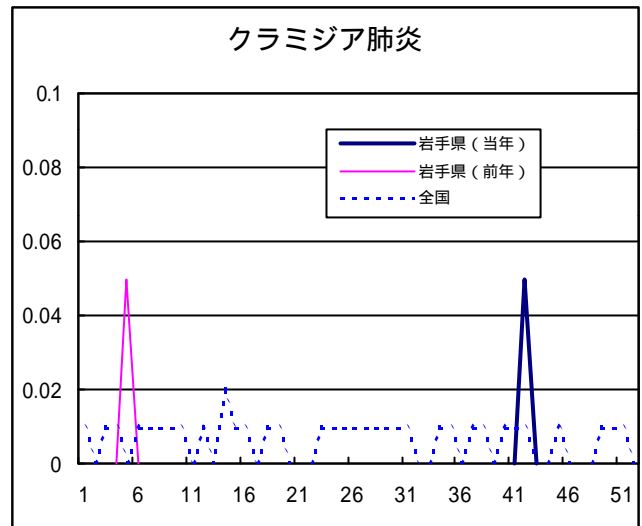
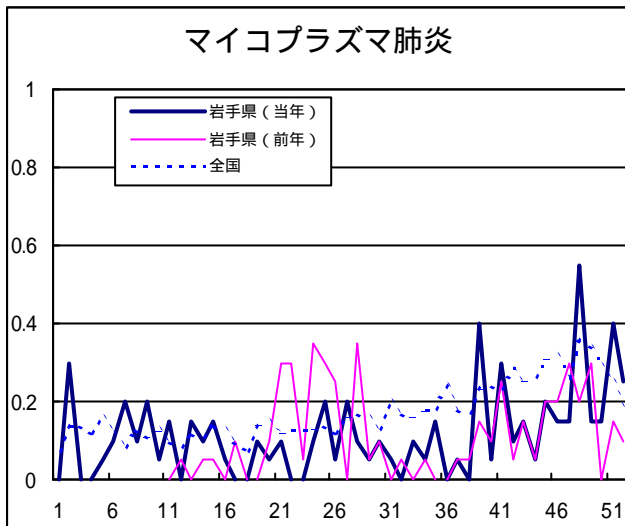
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記宛先までお寄せください。
岩手県結核・感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）









定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	61	37	12	20
盛岡	17	11	3	5
花巻	5	3	1	2
北上	4	2	1	2
水沢	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	3	1	1
釜石	5	3	1	2
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

岩手県感染症週報 平成13年第52週 平成14年1月10日発行

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部保健衛生課

事務局：岩手県結核・感染症情報センター

（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1

TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail：CC0019@pref.iwate.jp

URL：http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/

<岩手県結核・感染症情報センター>

http://www.pref.iwate.jp/~hp0360/

<岩手県保健福祉部保健衛生課>